

## 本園の特色ある教育活動

越前市武生西幼稚園

### 1 園の実態

本園は、越前市の西部に位置し、周囲は商業施設、AWIスポーツアリーナ、図書館、中央公園、だるまちゃん広場など公的施設が多く、交通量が多い地区にある。

当園は、転勤での転居や外国からの入国による幼児が増えてきたので、いろんな歌や踊りを取り入れたり、異文化にふれたり、集団遊びを楽しんだりして、お互いに関心や親しみがもてるようにしている。

### 2 活動のねらいと実践例

(1) 小学生とふれあいながら刺激を受けたり、あこがれの気持ちをもったりして親しむ機会をもつ。

① 『1年生のおもちゃらんど』や『にしっこらんど』などの遊びの交流

今年度は、近くの店でお買いもの体験をしたり、菊人形に遠足に行ったりしたことをきっかけに、お店屋さんごっこ『にしっこらんど』をつくった。つくっている期間には、1年生の『おもちゃらんど』に招待され、いろんなおもちゃで遊ぶ中で、声のかけ方やお金やシールの使い方など、とても勉強になった。

幼稚園の『にしっこらんど』のゲームコーナーやレストランにも小学生が楽しく参加してくれて、「いらっしやいませ！」と声をかけたり、遊び方や約束などを教えてあげたりして関わることができた。幼児たちもとても満足感が得られたようだった。



買い物体験



おもちゃらんど



にしっこ  
らんど



② その他の交流

地域探検や絵本の読み聞かせ、昼休み時間の交流などで、小学生と一緒に遊んで関係を深めることができた。また、掃除の時間に小学生が来てくれて、雑巾の絞り方や拭き方を教えてもらい、一緒に拭き掃除をしている。小学生に親しみやあこがれの気持ちを持ち、進んで話しかける姿が見られた。

(2) 西地区の保育園や幼稚園と交流し、相互の連携を図る。

春には、小学校のマラソンを一緒に応援した。秋には5歳児が集まり、小学校の1年生の勉強を見せてもらったり、体育館でゲームなどで遊んだりして交流した。少しずつ顔見知りになり、「早く1年生になりたい！」とうれしそうに交流している姿が見られた。



みんなでゲーム遊び

(3) 身近な人や未就園児と一緒に活動しながら親しみを持ち、思いやりやいたわりの気持ちをもつ。

① 未就園児との交流

今年度も未就園児体験保育（あそびにおいで）を開催し、親子でゆったりと遊べる場を設けた。また、お店屋さんごっこをしたり、鬼のお面をかぶって豆まきごっこをしたりして楽しんだ。普段接する機会が少ない小さい子と一緒に遊ぶことで、小さい子への接し方や思いやりなどが育ってきた。



豆まきごっこ

② 祖父母との交流

秋の祖父母参観では、一緒にかぼちゃ入りお月見団子を作って会食し、楽しい時間を過ごした。県内外や外国籍の祖父母の参加もあり、深い愛情ややさしさに触れることができた。



お月見団子づくり

(4) 日本の伝統的な文化や外国の異文化にふれ、お互いに親しみを持ち関わりを深める。

① 日本の文化にふれる

「お茶教室」を行い、ゲストティーチャーの先生にお菓子やお茶の作法を教えてもらった。抹茶を飲むことに慣れない幼児もいたが、回を重ねるたびに落ち着いた雰囲気の中で楽しむことができた。今年度はお茶会参観を行い、外国籍の保護者も含め、観てもらうだけでなく一緒に参加して関心を深めてもらった。



お茶教室

また、今年度も「もちつき会」を実施した。もちをついたりこねたりして、いろいろな感触や味を楽しんだ。初めて体験する幼児や外国籍の人もいて、「日本の文化を知りました!」「来年も!」と喜んでいただき、子どもも大人も楽しめる行事となった。



もちつき会

③ 異文化にふれる

小学校の『トゥカーノ集会』に参加し、1年生と一緒に『レーレ』の踊りを練習した。集会当日は、小学校の子が踊るのを見学したり、幼稚園の子がステージで踊ったりして、楽しい時間を過ごすことができた。

また、幼稚園公開に『昔遊び』を取り入れた。日本の保護者だけでなく、外国籍の保護者にも昔の遊びを披露してもらい、子ども達も関心を深めていた。



ブラジルのゴム跳び

その後、外国籍の保護者には『ケンパ』を教えてもらい、はねつき、ふくわらい、おはじきなど日本の昔遊びと一緒に楽しんだ。参加後のアンケートでは、「私たちの文化に興味をもち遊び思い出してくれたことに感謝します。」「外国の遊びや日本の違う遊びにふれる機会をつくってもらえて良かったです。」など、昔遊びを通して、それぞれの文化にふれて楽しんでいる様子が見られた。



はねつき

ふくわらい

### 3 成果と今後の課題

- (1) 小学生といろいろな行事や毎日の掃除、休み時間の交流などで関わりをもち、親しみを深めることができた。特に1年生とは、授業見学、おもちゃランド、にしっこらんど、新1年生体験入学といろいろな関わりをもち、小学校を身近に感じることができた。今後は、さらにいろいろな学年と交流し、小学校との連携を図りながら、移行が円滑にできるようにしていきたい。
- (2) 5歳児は、同地区内の保育園、幼稚園と交流する中で、同じ小学校に行くことを知り、お互いの存在を意識することができた。交流活動は、小学校へのスムーズな移行につながるので、園同士の連携を図りながら今後も続けていきたい。
- (3) 保護者や祖父母をはじめ、地域の方や未就園児などと交流をしたことで、幼児の人的関わりが多くなり、幅広い世代の人たちと関わる力が身についた。また今後も未就園児体験保育を続け、園の様子や雰囲気を知ってもらうことで、園に親しみをもち参加することを楽しみにしてもらえよう内容を工夫していきたい。
- (4) 保護者の理解や協力を得ながら、幼児が日本の伝統的な文化や外国の異文化に親しむことができた。今後は、園の活動や行事等を見直し、園生活をより楽しく充実できるよう進めていきたい。